

大学生のためのサマースクール「サマーチャレンジ」開催趣意書

平成 30 年 12 月

| | | |
|---------------|-----|-------|
| 高エネルギー加速器研究機構 | 機構長 | 山内 正則 |
| 高エネルギー委員会 | 委員長 | 相原 博昭 |
| 核物理委員会 | 委員長 | 永江 知文 |

平成 30 年の委員会による見直しを受けて、高エネルギー研究者を代表する高エネルギー委員会と原子核実験分野を代表する核物理委員会は、以下に記述されるような、サマーチャレンジプログラムの意義を再確認し、このプログラムの運営に協力します。KEK はそのための予算と人員を十分に確保し、サマーチャレンジ事業を継続させていきます。

サマーチャレンジは、基礎科学分野の底上げを目指し、わが国の将来を担う若者、特に大学生を対象にして、世界の第一線で活躍する研究者による最新の研究の紹介と、研究の喜びを直接体感できる機会を提供するもので、意欲を持てば自分たちも最先端の研究に参加できるのだということを意識してもらう場です。

2007 年に素粒子・原子核を研究する研究者の有志によって発案され¹⁾、大学生を対象にした従来には無いサマースクールとして、高エネルギー加速器研究機構(KEK)と大学の研究者と共催する形で進め、KEK と KEK が主催する大学支援事業の財政補助を受けて既に 2018 年までに 12 回目開催しました。

その間、物性分野との共催も行い、高エネルギー加速器研究機構(KEK)の施設の有効活用を進めてきました。開催当初から数えて 1000 人以上の学生が参加しており、近年の調査²⁾によると、その参加者の熱狂的な満足感・その後の進路選択に大きな影響を与えており、当初の目的を十分に果たしています。

世間的な状況としては、この 12 年間に基礎科学分野から日本人ノーベル賞受賞者が 13 名輩出され、日本が主導した物理結果が多数発表されるなど、日本

1) <https://www2.kek.jp/ksc/content/files/kaisaishuishiho.pdf>

2) KEK Proceedings 2016-13 (216-219p)

3) https://www2.kek.jp/ksc/12th_2018/content/files/ksc_toshin_2018.pdf

の基礎科学は黄金期を迎えたようにも見えます。しかし、基礎科学研究の更なる発展、その重要性の増加を考えれば、基礎科学の底上げは更に緊急度を増しており、2007年の当初に設定した目的の方向性の重要性、また、サマーチャレンジの意義はより高くなっており、今後日本の基礎科学を背負う若者育成のために、サマーチャレンジを継続し、さらに発展させることが、大きな意味を持っています。

2018年に研究分野の代表と KEK の所施設のメンバーからなるサマーチャレンジ検討委員会が開かれ今後のサマーチャレンジの中長期のあり方を検討しました。その提言³⁾では、様々な分野や地域の学生に門戸を開いたサマーチャレンジを堅持し、集中した期間で効率的なプログラムを、継続的に保証された予算を確保しながら運営していくことが上げられています。また、サマーチャレンジを、さらに魅力的なプログラムとしていくために、素粒子原子核研究分野のコミュニティと KEK が更に密接に協力して、素粒子原子核研究分野のコミュニティの重要な行事として位置づけて運営して行くことが推奨されました。

それを受けて、サマーチャレンジの運営にコミュニティからの委員を加え、KEK からも演習プログラムへのさらなる積極的な参加などのプログラムの強化を進めております。

短い期間でも研究者と一緒に生活しながら、研究の一端を実際に担ってみるサマースクールという形式は、今後の基礎科学を背負う若者育成に非常に有効で、今後も「サマーチャレンジ」を進めていきます。精選された課題実験を全国の若手研究者のサポートのもとで行うことにより、自然と物理学に対する関心と理解がまるようプログラムを構成しています。